

令和4年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月27日実施)	総合評価（3月31日実施）		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
1	教育課程 学習指導	<p><教育課程> (1) 学力向上進学重点校として、生徒が希望する進路実現のための教育課程を編成する。</p> <p>(2) グローバル化が進展する社会に求められる資質・能力を育成する。</p> <p><学習指導> (1) 授業の質の向上と量の確保に努め、生徒の一層の学力の向上を図る。 (2) 「生徒の心に火をつける授業」を目指し、質の高い教育を充実させるため不断の授業改善を行う。</p>	<p><教育課程> (1) 学力向上進学重点校として、県立高校改革実施計画に基づく『質の高い教育の充実』のための教育課程を編成する。</p> <p>(2) グローバル化に求められる資質・能力を育成するため、生徒の国際的視野を広げることができる教育課程を編成し実施する。</p> <p><学習指導> 本校に求められている学びの在り方を追及し、生徒が主体的に探究し考察する力を高められるよう不断の授業改善に取り組む。</p>	<p><教育課程> (1) ①生徒一人ひとりの進路希望をより高く確実に実現するための教育課程を不断に追求する。 ②新教育課程の内容、評価規準などについて更に検討を重ね実施する。 (2) ①姉妹校交流について、2年間の交流事業中止からの再開に向けた準備・情報収集を進めるとともに、ICTを活用した交流活動等の導入を検討する。 ②国際交流委員会の活動を中心とした様々な行事、国際理解教育活動を増やし、コロナ禍においても実施できるものを企画する。 <学習指導> ①校内授業研究及び公開研究授業等を通して、生徒が主体的に探究し考察する力が高まるように授業改善を組織的に推進する。 ②オンライン課題配信について研修を継続して行うと同時に、1人1台端末で効果的に教育活動が展開できるように研修を実施する。</p>	<p><教育課程> (1) 満足度の高い教育課程の編成ができたか。（担当者による評価）</p> <p>(2) 生徒の国際的視野を広げ、物事を多角的に検討する姿勢を身につけさせることができたか。（生徒対象アンケート）</p> <p><学習指導> ①校内授業研究および公開研究授業を通し、本校に求められる主体的に探究し考察する力が高まるような授業改善が推進できたか。（担当者による評価、生徒による授業評価） ②効果的なオンライン課題配信が実施できたか。1人1台端末で効果的な教育活動が実施できたか。（生徒対象アンケート）</p>	<p><教育課程> (1) 令和4年度1年次からの教育課程に沿った観点別評価について、本校基準を作成した。また新入試の動向を踏まえ、2・3年次の教育課程の確認を行った。</p> <p>(2) ①本年度もコロナ禍の影響で姉妹校交流事業を再開することができなかった。 ②国際交流委員会の活動として「近隣大学の留学生との交流」を始め、新規行事を複数開催した。また、前年度実施ができなかった「大使館訪問」「留学生との討論」も再開することができた。</p> <p><学習指導> ①校内授業研究および公開研究授業を通し、授業改善を推進することができた。生徒による授業評価においても高い評価を得ることができている。 ②対面授業と連携するように効果的にオンライン課題配信を行うことができた。生徒対象のアンケートにおいても効果的であるという回答が多かった。</p>	<p><教育課程> (1) 令和4年度1年次からの教育課程において、生徒の進路希望を確実に実現するために、3年次における地歴公民科等の科目の選択方法を工夫し、検討していく。 (2) ①社会情勢の変化に伴い、姉妹校交流の再開に向けた準備を実施し、交流の再開をする。 ②国際理解教育活動において生徒による企画立案の機会を増やし、継続して行事を実施していく。</p> <p><学習指導> ①さらなる生徒の学力向上を図るために、公開研究授業のテーマ設定を行い、深い学びの視点を踏まえた授業改善を推進する必要がある。 ②1人1台端末を活用した授業実践を共有、進化するための研修を実施する必要がある。</p>	<p>・生徒による授業評価が高いことは、教職員の努力の成果だと思います。 ・近年、社会の急激な変化により、子供たちを取り巻く環境も大きく変わっており、多くの課題が生じています。学校の教育課程にも多くの内容が、〇〇教育の形で求められていると思います。これらに対応するため、これまで蓄積した翠嵐の授業を教科横断的な視点で教材づくり・授業づくりを進めていただき、翠嵐の授業をより魅力的なものにしていただけるよう期待しています。 ・学力向上進学重点校として生徒一人ひとりの目標実現のためにきめ細かな実践がなされていると思います。姉妹校との交流もぜひ復活させて生徒の視野を広めてあげてください。授業参観もさせていただきましたが、一人ひとりが深い学びに向けて進んでいることが感じられました。</p>	<p><教育課程> (1) 「授業と評価の計画」の単元目標の達成度については十分なレベルに達しているが、単元ごとの観点別の評価やさらなる検証をするための時間的余裕があまりないため、定期考査時にまとめて行っているのが現状である。 (2) 国際交流委員会の活動を増加させることができたが、姉妹校交流を再開することができなかった。</p> <p><学習指導> ①校内授業研究および公開研究授業の実施を通し、授業改善を推進することができた。生徒評価において高い評価を得ることができた。 ②効果的なオンライン課題配信を行うことができ、生徒評価において高い評価を得ることができた。</p>	<p><教育課程> (1) 観点別評価に関する研修会を全体で実施して、各教科において単元が終わるごとに科目担当者間で話し合いを持つようにする。 (2) 社会情勢の変化に伴い、姉妹校交流の再開を前提とした国際理解教育活動を展開していく必要がある。</p> <p><学習指導> ①さらなる生徒の学力向上を図るため、教育目標に即したテーマに沿って授業研究や公開研究授業を継続していく必要がある。 ②1人1台端末を活用したよりよい授業を行うための研修を実施する必要がある。</p>
2	生徒指導 ・支援	<p>(1) 豊かな社会性や規範意識、他者を思いやる心と冷静な判断力など真のトップリーダーに求められる資質と能力の涵養を図る。</p> <p>(2) 基本的生活習慣の確立を図る。</p> <p>(3) さまざまな教育活動を支える教育相談体制の充実を図る。</p>	<p>(1) 学校生活や社会との関わりの中で、規範意識や思いやりの心、判断力や行動力の伸長を育む教育活動を一層充実させる。</p> <p>(2) 規則正しい生活や時間管理など、基本的生活習慣の確立に主体的に取り組む姿勢を育てる。</p> <p>(3) 安心・安全で意欲的に学校生活を送れるよう、教育相談体制の充実を図る。</p>	<p>(1) 授業や部活動、学校行事等とおして協働し、適切に判断して行動できるよう自覚を促す。</p> <p>(2) 登校時間の順守や身だしなみ・挨拶の徹底について、確認期間を設けて主体的な自律を促す。</p> <p>(3) 学年団・SC・SSWと連携を密に取り、組織的な教育相談を実施する。また、生徒個々の状況に応じたケース会議を開催する。</p>	<p>(1) 授業や部活動、学校行事等での取り組みをおして、充実感や自信を持つことができたか。（生徒による授業評価、学校生活アンケート）</p> <p>(2) 適切かつ主体的に取り組むことができていくか。（担当者ごとに評価）</p> <p>(3) 状況に応じた会議の開催や組織的な対応ができたか。（担当者による評価）</p>	<p>(1) 感染防止対策を講じた上で全ての行事を実施し、生徒の主体性を育むことができた。部活動においても高い成果を上げた。 (2) 日常的な声かけに加えて身だしなみ週間や集会等での意識啓発を行った。 (3) 担任やSC等との連携によりきめ細かく組織的な教育相談を行い、年2回の生徒情報交換会を通して全職員での共通理解を図った。長期休暇の前後に個人面談を実施し、生徒を支援した。</p>	<p>(1) 情勢変化に則して従来規模の行事開催が可能となるよう準備していく。 (2) 新生徒指導提要の趣旨に則り、生徒が主体的に規範意識を高め基本的生活習慣を確立するよう指導方法の見直しを随時行っていく。 (3) 生徒の状況を常に把握し、引き続き組織的に対応すると共に、今後も学年や学校全体で定期的に情報共有を行っていく。</p>	<p>・翠嵐高校のグランドデザインにあるとおり、今の教育課程を実施できるのは、すべての教育活動において先生方の生徒指導・支援と教育相談体制が整っているからだと思っています。先生方それぞれが、それぞれの目でアンテナを高く広くしていただき、生徒の「困っている」姿を受け止めていただいていることに感謝いたします。 ・生徒の自主性を後押ししてあげていただきました。</p>	<p>(1) with コロナ時代での感染防止対策を講じて全ての行事を実施し、生徒の主体性を育むことができた。 (2) 身だしなみ週間や集会を通して生徒の規範意識の啓発を行った。生活指導について職員の共通理解が必要である。 (3) SCを積極的に活用し個に応じたきめ細かな教育相談を実施した。年2回の生徒情報交換会を通して職員の情報共有を行うとともに、長期休暇前後に正副担任による個人面談を実施し、生徒を支援した。</p>	<p>(1) 従来規模の行事開催に近づけ、生徒の自主性を育むと共にそれに伴う責任について考えさせていく。 (2) (3) 改定生徒指導提要の「成長に繋がる指導」「チーム学校による教育相談」について全職員が理解し、共通認識をもって生徒の指導や相談にあたる必要がある。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月27日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	(1) 学力向上進学重点校として、生徒の高い進路希望を実現させるための支援体制を確立する。 (2) 大学卒業後の進路も見すえたキャリア教育を推進する。	(1) 生徒の高い進路志望の実現に向かう指導・支援を更に推進する。 (2) コロナ禍であっても実現できる大学での学びとその先の将来像を見すえさせるキャリア教育に取り組む。	(1) ①進路集会、保護者進路説明会を通して、生徒、保護者の進路に対する高い意識を更にもたせる。 ②生徒の進路実現に向けた学習支援「翠嵐スタンダード」に加え、学習の心構え「翠嵐ベーシック」を学校全体に定着させる。 (2) コロナ禍であっても実施できる校外研修、分野別職業講話の形態を検討する。	(1) ①学力向上進学重点校として求められる進路実績を上げることができたか。 ②生徒の進路実現に向けた取り組みを推進することができたか。(担当者による評価) (2) 大学での学びに対する理解と職業観、社会観を涵養できたか。(生徒対象アンケート)	(1) ①進路集会、保護者進路説明会を通して、生徒、保護者の進路に対してより高い意識をもたせることができた。 ②「振り返り」を再認識させる取組を取り入れ、「翠嵐ベーシック」にある「自立・自走」の定着を促すことができた。 (2) 大学院生による全体対象の東大ガイダンス、対面での校外研修、分野別職業講話を実施し、生徒の社会観、職業観を更に高めることができた。	(1) ①進路集会、保護者進路説明会を継続し、生徒、保護者の高い進路実現に対するニーズに応え続ける。 ②「翠嵐ベーシック」を更に定着させ、生徒の「自立・自走」を促す効果的な企画を検討する。 (2) 現在の将来像を見すえさせる企画を継続し、内容を更に充実させる。	・学校視察等のお話しがあった際は是非受け入れをお願いします。先生方が他校の先生方に自信を持って説明できることも翠嵐の魅力のひとつだと思います。 ・翠嵐スタンダード、ベーシックを今後も推進されることを続けていただくようお願いします。 ・海外への大学進学之道も選択肢のひとつだと気付きを与えて欲しい。 ・熱心なご指導により素晴らしい実績を達成されていると思います。	(1) ①進路集会、保護者進路説明会による潤沢な情報発信を行えた。これらを始めて10年となるが、新たなスタイルの構築を求め、生徒、保護者に更なる高い意識をもたせることができる企画を検討したい。 ②学校説明会等を通して入学前生徒に「翠嵐ベーシック」を浸透させることができたが、入学後生徒に対して更なる意識改革となる取り組みを検討したい。 (2) 生徒が将来について受動的に考える機会は十分に設けられた。能動的に探究する企画を検討したい。	(1) ①横浜翠嵐高等学校の次の10年を見すえた進路指導改革の検討を始める。新たな企画を検討して試行を繰り返す、本校のよりよい進路指導スタイルの構築を目指す。 ②「振り返り」のより効果的な手法を模索する等、生徒の「自立・自走」を促す手法を引き続き検討する。 (2) 「校外研修」「分野別職業講話」を踏まえた「探究」をも意識した進路指導企画の検討を継続する。
4	地域等との協働	(1) 本校の教育活動や特色ある取組について、情報を発信し、地域に開かれ、信頼される学校づくりを目指す。 (2) 地域に開かれ、信頼される学校づくりを目指す。	(1) 本校の教育活動や特色ある取組に関する情報を広く発信するとともに、コミュニティ・スクール等による、地域に開かれ、信頼される学校づくりを目指す。 (2) 地域に開かれ、信頼される学校づくりを目指す。	(1) ①学校 HP やメール配信システムを通じ保護者や地域に対し、迅速な情報発信を行い、開かれた学校をつくる。 ②学校説明会を工夫し、本校を目指す中学生・保護者に対し、情報を積極的に配信する。 ③地域に開かれ、信頼される学校づくりを目指す。	(1) ①学校の情報を迅速かつ正確に発信できたか。(担当者による評価) ②学校説明会の工夫ができ、参加者の期待・要望に応えられたか。(参加者アンケート) ③生徒が地域貢献の大切さを理解できたか。(担当者による評価)	(1) ①学校 HP やメール配信システムを通じ、学校の動き等を保護者や地域に対し、迅速な情報発信を行うことができた。 ②年間2回の学校説明会において形態を工夫し、数多くの中学生・保護者に対し説明をすることができた。アンケートにおいてもよい結果であった。 ③防災訓練において地域と協働して実施することができた。	(1) ①重要なお知らせについてメール配信システムの使用頻度を上げていき、より詳しく継続的に情報を発信する。 ②学校見学会や学校説明会などの回数や内容について見直しを図り、より多くの中学生が本校を目指せる形にする。 ③必要な防災管理体制を地域と連携して構築する。	・「地域に開かれ、信頼される学校づくり」のために「外部の教育力と連携」できる部分についても積極的に関わらねばと感じています。 ・三ツ沢地区はとても良い自然環境に恵まれています。僅かな時間であっても美化など生徒と地域の方との活動があったら良いと思います。 ・防災関連では、近隣の地域とともに計画を立てていくことが必要だと感じました。	(1) ①学校 HP やメール配信システム等を活用し、学校からの情報発信を行うことができた。マチコミメールを用いて重要なお知らせを保護者等に伝達できた。学校 HP を常に新しい情報に更新していく必要がある。 ②コロナ禍において形態を工夫し年間2回の学校説明会を生徒と協働して実施した。 ③地域に根ざした防災への意識を高めていく必要がある。	(1) ①学校 HP の定期的な確認を実施し、常に最新の情報にするように働きかけを行う。マチコミメールの活用を促進すべく、活用例などを発信していく。 ②学校説明会の種類や回数について改善を図り、本校への入学希望者へ、より多くの説明会の機会を提供する。 ③引き続き地域との連携を強化していく。
5	学校管理 学校運営	(1) 事故・不祥事防止に向けた取組を徹底する。 (2) 防災意識の向上を図る。 (3) 耐震工事に伴う改修期間においても生徒の安全・安心な学習環境を整備する。 (4) 教員が子どもたちと向き合う時間を確保するために、教員の働き方改革を推進する。	(1) 事故・不祥事防止に取り組み、地域・保護者に信頼される学校づくりを推進する。 (2) 防災教育を推進し、生徒の防災意識の向上を図る。 (3) 感染対策を取りながら、生徒の快適で安全・安心な学習環境を保持する。 (4) 働き方改革を進めるにあたり、長時間時間外勤務の減少、休暇の取得を促進する。	(1) 不祥事防止会議を実施し、時期に応じた適切な不祥事防止研修会を実施する。 (2) 実効性のある避難訓練やDIG訓練を実施する。 (3) ゴミ箱のない教室での生活を継続し、感染防止意識の向上を図る。 (4) 夏季休暇が取得しやすくなるような学校閉庁日を設定する。	(1) 事故・不祥事ゼロを実現できたか。(担当者による評価) (2) 生徒の防災意識の向上が見られたか。(担当者による評価) (3) 感染意識の向上が図られたか。(担当者による評価) (4) 夏季休暇を適正に取得できたか。(夏季休暇の取得状況)	(1) 定期的に不祥事防止会議を実施し、計画的に不祥事防止研修会を実施し、事故・不祥事ゼロを実現した。 (2) 避難訓練やDIG訓練によって生徒に防災意識を持たせることができた。 (3) 教室からのゴミ箱の撤去と共有物の消毒を継続することで生徒の感染防止意識を維持させることができた。 (4) 学校閉庁日を5日間設定し、ほぼ夏季休暇を消化できた。	(1) 引き続き定期的な不祥事防止会議による効果的な不祥事防止研修会の実施により、事故・不祥事ゼロを実現する。 (2) さらに生徒の防災意識の向上を図る。 (3) 今後のコロナ禍に応じた感染防止意識の向上を図る。 (4) 長時間時間外勤務の減少、年休の取得推進が課題である。	・現在の先生方の働き方を一層見直し、より授業準備や教材研究や授業準備に集中できる時間と環境の確保を学校運営協議会でも継続的な議題したいと思います。 ・不祥事防止に関しては本当に常に自分事として教職員一人ひとりの意識の向上が大切だと考えています。 ・安全管理のためにも、見知らぬ人への挨拶励行は効果的だと思います。 ・先生方への身体的、精神的な負担が掛からぬよう拘束時間の徹底管理をお願いします。	(1) 成績処理や多くの志願者に対する入学者選抜等、事故なく実施することができた。 (2) 避難訓練やDIG訓練をとおして生徒に防災意識を持たせることができたが、その意識をいかに向上できるかが今後の課題である。 (3) 教室のゴミ箱は撤去したままだが、コロナの収束状況を踏まえ廊下に共用ゴミ箱を設置した。生徒の感染防止意識を保持することが今後の課題である。	(1) 引き続き、適正な成績処理や入学者選抜が実施できるよう不祥事防止研修会を実施していく。 (2) 地域との連携により開かれたリアリティのある避難訓練ができないか模索する。 (3) 制約のあるゴミ箱の設置と共有物の消毒作業の継続により、コロナ状況に対応しながらも感染防止意識を保持していく。